

News

『高知大学 テニュアトラック制度 成果報告シンポジウム』を開催しました。

12月8日（土）、高知市内において『高知大学テニュアトラック制度成果報告シンポジウム』を開催しました。

シンポジウム冒頭では、協口学長から開会の挨拶、文部科学省基盤政策課 板倉課長の来賓挨拶、独立行政法人科学技術振興機構 熊谷プログラム主管のプログラム説明の後、若手研究者評価支援機構の副機構長である津田教授から本事業の経過説明が行われました。

続いて、文部科学省テニュアトラック普及・定着事業の支援を受けて平成23年度以来独自にテニュアトラック制度を実施している医学部のテニュアトラック教員1名が研究の成果を発表した後、「イノベティブマリンテクノロジー研究者育成」事業のテニュアトラック教員6名がこれまでの研究の成果の発表を行いました。

さらに、特別講演者として独立行政法人医薬品医療機器総合機構 内海英雄理事をお迎えし、「医療イノベーションと大学の役割」と題した特別講演が行われました。



開会の挨拶（協口学長）



会場風景（内海理事講演時）



三浦 収 特任助教
(演題: 潮間帯生物が織りなす生物間相互作用)



Ulanova Dana 特任助教
(演題: Studies on marine microorganisms producing natural bioactive compounds)



榎 俊太郎 特任助教
(演題: マイクロ波のユニークな加熱特性を利用した海藻バイオリファイナー)



寺本 真紀 特任講師
(演題: 海洋性細菌の研究で得られた成果と今後の展開)



小野寺 健一 特任助教
(演題: 海洋共生微細藻類の有用代謝産物探索)



片岡 正典 特任講師
(演題: リン化合物を中心とした海洋天然物化学の開拓)

シンポジウム終了後の情報交換会では、今後のプログラムの進め方等について活発な意見交換とともに、参加者によるテニュアトラック教員へのアドバイスも積極的に行われました。

本シンポジウムは、本学の教職員や学生等に加えて、他大学、企業関係者等、約 100 名の参加者を得て、盛況の内に終わることができました。